

編集後記

2021年は、3月末日をもって渡津英一郎先生が退職されました。長らく愛知大学における教職教育にご尽力いただき、感謝いたします。そして、4月に宇野由紀子先生が法学部へ配属となりました。ご専門は教育行政学となります。さらに前原裕樹先生が三重大学へ転出されました。新天地でのますますのご活躍をお祈りします。そして9月より山川法子先生が経営学部へ配属となりました。ご専門は教育方法論です。また9月末で岡田圭二が教職課程センター長の任期を終え、加島大輔先生が新しい教職課程センター長に、吉本篤子先生が副センター長とられました。また豊橋教職課程センター室では、竹田敏彦先生がお辞めになられ、竹内輝先生に復帰していただきました。新任のお二人の先生方を迎えて、運営メンバーの顔ぶれも大きく変わりました。

そんな中、この1年も新型コロナウイルス感染症への対応でくれた印象です。学生達も教員、スタッフも例年と同じであったとはいえないでしょう。この編集後記を書いている岡田自身が、なんだか心が重いというのが正直なところですが、何かにつけてどんよりしております。新型コロナウイルス感染症への対応のために忙しくするために何らかの高揚感が初期においてあったのですが、これだけ長引くと私たちに暗い影を落としますね。教職課程に限らず学生達も友人がなかなかできない、泣けてくる、気が重いという話も、学生の指導にあたる教員も、対面であれば5分で終わる話が、メールやzoomで指導すると、メールならメッセージの往復に1日が経過し、zoomだとどうしても隔靴搔痒状態で、お互いにイライラするという有様です。

そして、コロナ禍以前の学校がはたして戻ってくるのかは正直なところ疑問です。社会や資本のグローバル化はますます進むでしょうから、今後も何らかの感染症が大流行する可能性はますます高くなる。そうすると、これからも感染症に注意しながら組織を運営し教育していくことが求められる。難儀な時代ですね。

ただ悪い事ばかりではなく、危機に対する即応能力は明らかに組織、個人共に上がったと思います。学生達のご家庭のネット環境の整備と共に、オンライン授業がやりやすくなりました。我々も様々な新しいサービス(zoom、teams、Moodle、Google driveなど)にも習熟して使いこなせるようになりました。疾病が社会を変えることは歴史学という所ですが、今回もまさにそうになりましたね。目に見える形でこれほど大きく急激に社会が変わったのは、私の経験だとベルリンの壁の崩壊時以降ではないかと感じております。世界史的な変化の時代に生きていることを実感するとともに、なんとか落ち着いた日常がくることを願い、来年度の編集後記が落ち着いた内容になることを切に望みます。

(岡田圭二)

愛知大学教職課程研究年報 第11号

2022年2月20日発行

編集・発行 『愛知大学教職課程研究年報』編集委員会

〒453-8777 愛知県名古屋市中村区平池町四丁目60番6

(電話 052-564-6112)

印刷 株式会社 荒川印刷
